

授業改善ガイド

— 授業研究を通して —

1 授業力と授業改善

- (1) 授業力とは <授業力の6要素>
- (2) 授業改善のPDCAサイクル

2 授業づくり

- (1) 指導観から授業の構想へ
- (2) 学習評価の充実
- (3) 学習指導案の作成と活用



3 授業研究の実際

- (1) 事前協議
- (2) 授業観察
- (3) 協議
- (4) 授業研究後

はじめに

この授業改善ガイドをお読みいただく皆さんへ

東京都においては、「誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育」の実現を目指して、様々な取組を進めています。子供たちの個性や能力に向き合い、その成長を社会全体で支える「東京型教育モデル」の実現に向け、東京都教育委員会は、学校及び教職員の皆さんと連携を図り、子供たちの輝く未来につながる教育の創造に努めています。中でも、「新たな教育のスタイル」の確立に向けて、授業デザインの転換を図ります。

様々な研修を通して、生成AI等を活用し、各種データを共有・分析することで、自身の授業を客観的に捉えられるような取組を行っていきます。

「授業」は、学校教育の要です。学ぶ主体は児童・生徒です。教員は、児童・生徒の学習活動を方向付け、支援し、指導をします。だからこそ、社会の状況や児童・生徒の実態に合わせて、「よりよい授業とは何か」を追い求め、日々授業改善を進め、自らの「授業力」を高めていくことが大切です。

授業改善ガイドでは、「授業力」や「授業改善」についての説明と、皆さんが授業研究を通して授業改善を進める際の方法例をまとめました。このガイドは、御自身の授業力を高めることはもちろん、他の教員への指導を行う際や、各学校の校内研究の場面などで活用できるように作成しました。若手の教員から中堅の教員、ベテランの教員、また、教員を目指している方の「授業改善はどうやればよいのだろう。」という悩みを解決するヒントとなることを願っています。

自分自身の授業力を高めたい。

子どもにとって楽しい授業をしたい。

研究主任として、校内研修を充実させたい。

授業研究はどのように
行えばよいのだろうか。



学習指導案はどのように
作成したらよいのだろうか。

授業研究 … 本ガイドでは、「授業観察」からその後の「協議」までの一連の流れをまとめて「授業研究」と表記します。

1 授業力と授業改善

(1) 授業力とは <授業力の6要素>

東京都教育委員会では、教員の資質・能力のうち、特に授業の場面において具体的に発揮されるものを授業力と捉え、その構成要素を六つに整理しました。

全ての教員にとって基盤となるのは、「**使命感、熱意、感性**」、「**児童・生徒理解**」、「**統率力**」であり、これらを踏まえて「**指導技術(授業展開)**」、「**教材解釈、教材開発**」、「**『指導と評価の計画』の作成・改善**」の要素が高まっていきます。また、校種や経験年数によって重視される構成要素は変化していきます。



授業力の6要素

- ① **使命感、熱意、感性** … 豊かな感性を身に付け、教員の職責を自覚し、困難な状況・課題に挑む姿勢。
- ② **児童・生徒理解** … 一人一人の児童・生徒を大切にしようとする愛情。
- ③ **統率力** … 児童・生徒の集団をまとめ、リードする力。児童・生徒を惹きつける力。
- ④ **指導技術(授業展開)** … 「わかる授業」「もっと学習したくなる授業」を実現する技能。
- ⑤ **教材解釈、教材開発** … 教科や関連する学問等に関する深い識見。
- ⑥ **『指導と評価の計画』の作成・改善** … 常に良い授業を求めていく、改善の意欲。

「東京都公立学校の『授業力』向上に関する検討委員会 報告書」平成 16 年 9 月

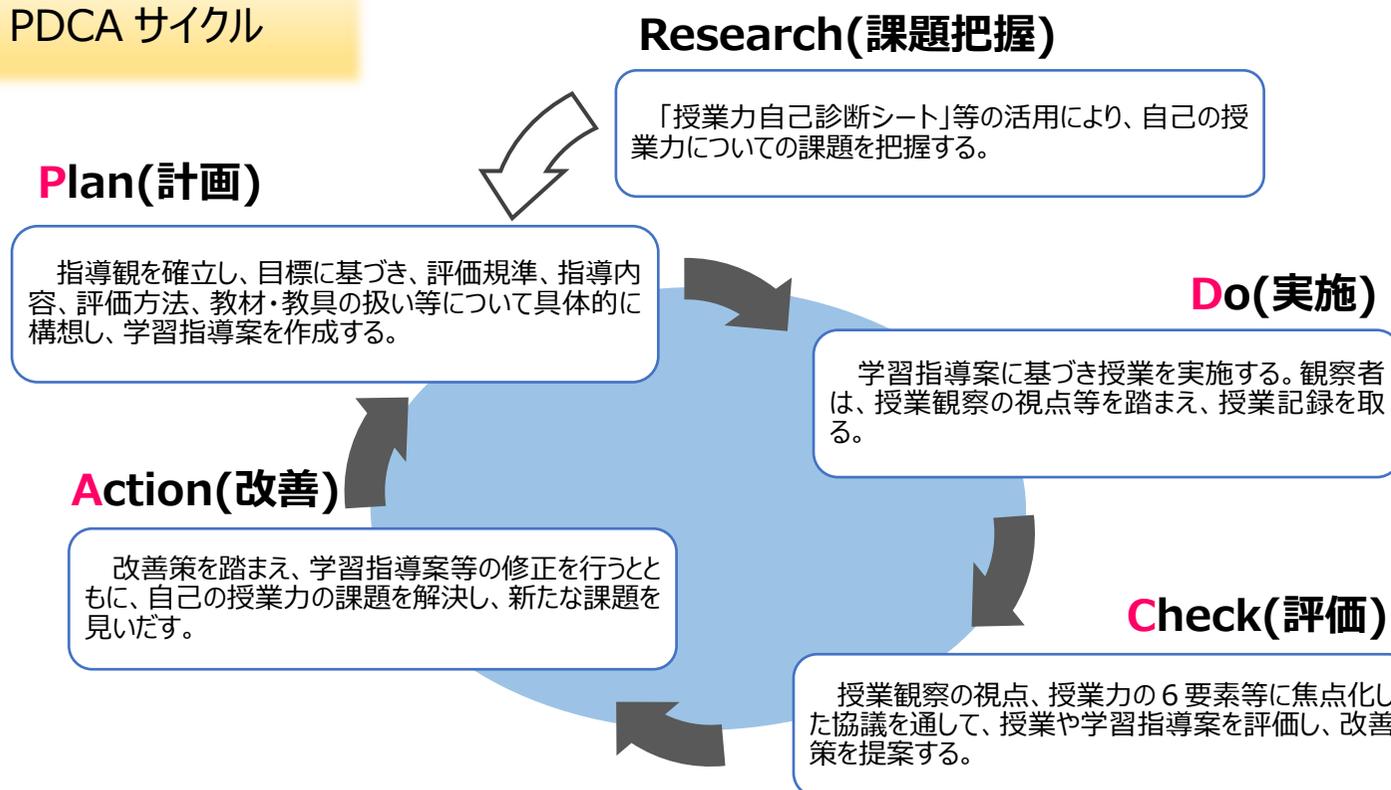
(2) 授業改善の PDCA サイクル

授業改善を計画的に行うためには、PDCA サイクル(授業を継続的に評価・改善するためのマネジメントサイクル)を回すことが有効です。指導観(単元(題材)観、児童・生徒観、教材観)を確立して授業の構想を立て、学習指導案を作成して授業実践及び観察を行い、授業後の協議を通して改善策を立てます。

PDCA サイクルにおいて Plan(計画)を行う前には、現状に関して課題把握を行います。「**授業力自己診断シート**」等を活用し、授業力について自己の課題を把握することが重要です。

※ 「授業力自己診断シート」は、Plant に掲載予定です。

授業改善の PDCA サイクル



2 授業づくり

授業は、教育基本法をはじめとする関係法令や学習指導要領、東京都教育委員会並びに区市町村教育委員会の教育目標等を踏まえ、校長が示した学校経営計画や学校経営方針並びに教育課程に基づき、意図的・計画的に行う必要があります。また、授業を行う際には、明確な「指導観」を基に教材解釈、教材研究、教材開発、指導計画や評価計画を作成することが重要です。

さらに、「わかる授業」、「もっと学習したくなる授業」の実施に向けて教員としての専門性を磨くとともに、授業規律を確立し、どの児童・生徒も主体的に授業に臨めるよう学習環境を整え、学習意欲の向上を図ることも重要です。

【授業づくりの際に…】



(1) 指導観から授業の構想へ

授業では、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通しながら、そのまとめ方などを工夫したり、内容の重要度や児童・生徒の学習の実態に応じてその取扱いに軽重を加えたりして、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して資質・能力を育む効果的な指導ができるようにすることが大切です。

指導観の確立	単元(題材)観 <何を身に付けさせるか> 学習指導要領等により、単元(題材)がもつ教育的意義を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領における位置付け 教育課程上の位置付け 年間指導計画における位置付け 単元(題材)の設定の経緯 単元(題材)の価値についての吟味 個別の教育支援計画、個別の指導計画等を踏まえた単元(題材)設定 	児童・生徒観 <どのような実態か> 単元(題材)に関する既習状況、児童・生徒の興味・関心等の実態を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 「全国学力・学習状況調査」や「児童・生徒の学力向上を図るための調査」等の学力に関する調査や意識調査の結果 学級担任・専科担当による授業記録等 既習のノート、ワークシートの記述や作品等 学校生活支援シート等の個別の教育支援計画、個別の指導計画等 児童・生徒のアセスメント等<small>(特別支援学校・特別支援学級等)</small> 	教材観 <何で教えるか> 授業で扱う資料や教材・教具、地域の施設・人材、学習環境などをどのように活用するかを明確にする。 <ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒に身近な事象や発達段階等に応じた教材の作成 ワークシートや具体物等の教具の準備 一人1台学習者用端末等のICTの効果的な活用 学校図書館や地域の公共施設、地域人材等の適切な活用
↓ 単元(題材)の構想	内容や時間のまとまりごとの目標を設定し、評価規準、指導内容、評価方法、教材・教具の扱い等について構想し、単元(題材)の指導と評価の計画を立てる。具体的な指導内容、指導の順序、指導方法、使用教材、指導の時間配当等を定める。 <ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動 学校図書館、地域の公共施設の利活用 ICTや教材・教具の活用 言語環境の整備と言語活動の充実 体験活動 学習評価に関する工夫 		
授業の構想	単元(題材)の指導と評価の計画を基に、前時までの学習と関連付け、本時の展開を構想する。 <ul style="list-style-type: none"> 単元(題材)の目標を達成するため、内容や時間のまとまりごとの目標を踏まえ、本時の目標を明確にする。 単元(題材)指導計画における本時の位置付けを明らかにする。 「指導と評価の計画」に基づき、本時の授業展開について、指導方法・内容、学習形態、評価規準・評価方法等を簡潔に記述する。 特別な配慮を要する児童・生徒に対しての指導方法及び手だてを記述する。 指導方法・内容、学習形態等の工夫を踏まえ、授業観察の視点を明確に記述する。 		

(2) 学習評価の充実

児童・生徒に必要な資質・能力を効果的に育成するためには、教科等の目標及び内容と学習評価とを一体的に検討します。学習評価により、児童・生徒の学習の成果を的確に捉え、評価の結果を教員が次の指導の改善に生かす「指導と評価の一体化」が重要です。

「[子供たちに未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む指導と評価の一体化を目指して](#)」（東京都教育庁指導部 令和2年9月）や『[指導と評価の一体化](#)』のための学習評価に関する参考資料」（国立教育政策研究所教育課程研究センター 令和2年3月、令和3年8月）等を参考に、以下の点に配慮して評価規準を設定します。

ア 観点別学習状況の評価

各教科等の評価については、学習状況を分析的に捉える「**観点別学習状況の評価**」と、これらを総括的に捉える「**評定**」の両方について、学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施するものとされています。観点別学習状況の評価や評定には示しきれない児童・生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況については、「**個人内評価**」として実施します。

イ 学習評価の改善の基本的な方向性

- 児童・生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- 教員の授業改善につながるものにしていくこと
- これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

ウ 「妥当性」、「信頼性」のある評価

学習評価の「**妥当性**」とは、評価結果が評価の対象である資質・能力を適切に反映しているものであることを示すものです。「妥当性」を確保するためには、学習指導要領に基づき、学習指導の目標を明確にするとともに適切な内容を設定し、その目標及び内容と対応した評価規準を設定するとともに、評価規準で示される資質・能力を評価するのに適した方法を選択することが重要です。

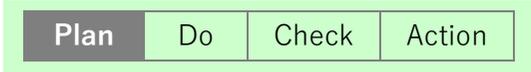
学習評価の「**信頼性**」とは、教員の主観に流れることなく、誰が評価しても同じ結果になることを示すものです。「信頼性」を確保するためには、評価が適切な評価規準や評価方法等によって学校全体で組織的・計画的に行われることが重要です。そして、学習評価に関して、児童・生徒や保護者に説明することも大切です。

【評価の観点と評価方法・場面等の例】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ペーパーテスト、文章による説明、観察・実験、式やグラフによる表現、実際に知識や技能を用いる場面	ペーパーテスト、論述、レポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動、それらを集めたポートフォリオの活用	ノートやレポート等における記述、授業中の発言、行動観察、児童・生徒による自己評価や相互評価等の状況 ※ 「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえる。

(3) 学習指導案の作成と活用

学習指導案を作成することにより、目標及びそれを達成するための授業の内容、方法等を明確にします。



- 学習指導案の作成
 - ・ 右に示す項目例を参考に、目標、観点別の評価規準、指導観、指導と評価の計画や授業展開等を分かりやすく記載するようにします。
 - ・ 個人情報や著作権等の取り扱いには、十分留意します。

Q 指導観には、どのようなことを示すとよいですか。

単元(題材)観

単元(題材)の意義や位置付けを、根拠となる学習指導要領や教育課程等を踏まえて記述するとよいです。

児童・生徒観

単元(題材)と関連する既習事項や学習方法等に関する定着状況、学習内容への興味・関心の状況等を具体的に記述するとよいです。

教材観

単元(題材)観と児童・生徒観を踏まえ、教材を使用する目的や意義、取り扱い方等を具体的に記述するとよいです。



- 学習指導案の活用
 - ・ 授業観察の前に学習指導案を読み込み、授業者の考えを把握します。視点を明確にして、授業観察に臨みます。
 - ・ 協議では、授業観察で捉えた児童・生徒の様子に基づき、計画の実現状況や目標の達成状況等を明確にした上で、改善策を検討します。

【学習指導案の項目例】

1 単元(題材)名 2 単元(題材)の目標 3 単元(題材)の評価規準 4 指導観 (1) 単元(題材)観 (2) 児童・生徒観 (3) 教材観 5 年間指導計画における位置付け 6 単元(題材)の指導計画と評価計画	
<小・中・高等学校等> 7 指導に当たって 8 本時 (1) 本時の目標 (2) 本時の展開 (3) 板書計画 (4) 授業観察の視点	<特別支援学校・特別支援学級等> 7 配置図 8 指導に当たって 9 本時 (1) 本時の目標 (2) 本時の展開 (3) 板書計画 (4) 授業観察の視点 別紙「単元(題材)に関する個々の幼児・児童・生徒の実態と本時の目標」

- ※ 各項目は、各教科等により違いがあります。
- ※ 学習指導案書式例は、Plant に掲載予定です。

3 授業研究の実際

(1) 事前協議

Plan

Do

Check

Action

授業者から示された学習指導案に基づき、**授業観察の視点等を確認し、授業のポイントや工夫する点**について、事前に協議等を行います。

授業研究実施日まで

- ・ 授業者は、余裕をもって学習指導案を示し、当日の実施内容を観察者等と検討し合う。
- ・ 観察者等からの意見を参考に修正を行い、当日用の学習指導案を準備する。

授業研究当日

- ・ 授業者は、児童・生徒の実態、本時の位置付け、指導の工夫等を具体的に説明する。
- ・ 観察者は、学習指導案から読み取ったことや授業者の説明を踏まえて質問等を行い、何に着目して観察するか見当を付ける。

Q 学習指導案からどのようなことを読み取ったらよいですか。

〔目標、評価規準、指導観、指導計画と評価計画等〕

- ・ [教科等の目標→単元(題材)の目標→各時間の目標]が一貫しているか。
- ・ 児童・生徒に身に付けさせたい力は明確か。
- ・ 主体的・対話的で深い学びの視点から指導計画が立てられているか。

〔本時の展開、観察の視点等〕

- ・ 本時の目標と評価項目との整合性があるか。
- ・ 授業における指導や学習活動のポイント(山場)はどこか。
- ・ 本時の目標を達成するための学習活動となっているか。
- ・ 児童・生徒の学習意欲を高める学習活動の工夫があるか。
- ・ 児童・生徒の学習の状況に応じた、個別の指導の工夫があるか。
- ・ 時間の配分は適切か。

(2) 授業観察

Plan

Do

Check

Action

【授業観察の視点例】

児童・生徒の様子	授業者の働き掛け	教材解釈、教材開発
<ul style="list-style-type: none"> 発問・指示に対し、どのような反応をしているか。 どのような意思表示・表出をしているか。 ノートやワークシートに書かれている内容が的確か。 	<ul style="list-style-type: none"> どのような発問・指示をしているか。 児童・生徒の考えを引き出すために、どのような工夫をしているか。 個別の指導・支援をどのように行っているか。 どのように評価しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標に合わせ、どのように教材を活用しているか。 板書や教材の工夫は生かされているか。 ICTの使用により、どのような効果があったか。

【授業記録用紙例】

時刻	授業者	児童・生徒

児童・生徒の学びの姿と授業者の手だてとを関連付けて記録する。

【授業記録の取り方例】

指導内容や発問等の記録	<ul style="list-style-type: none"> 指示、説明、発問や板書内容等を逐語的に記録する。 一斉指導、個別指導等の状況を記録する。 机間指導、評価（称賛や励まし）等の状況を記録する。
観察対象児童・生徒の記録	<ul style="list-style-type: none"> 数名の児童・生徒や学習グループを観察し、学習活動の状況を時系列で記録する。

ワンポイント

授業観察をする際の留意点

- 研修にふさわしい服装で参加する。
- 授業開始時刻や開会時刻に遅れないよう、余裕をもって会場に到着できるようにする。
- 授業観察中の私語は厳禁とする。
- 授業中に児童・生徒に話し掛けたり指示したりするなどして、学習を妨げない。
- 会場校の校長の許可なくカメラ等で撮影しない。

児童・生徒の考えや言動、授業者が行った机間指導等を記録する。

座席表

(3) 協議

【協議の進め方例】

「全体会」

情報の共有と確認

- 1 授業者は、学習指導案に示した授業観察の視点等に基づき本時を振り返り、自己評価を行う。
- 2 観察者等は、指導観や授業観察の視点等を基に焦点化した協議を行うために、質疑応答を行う。

- 授業者は、授業を振り返り、成果と課題、協議してほしい点等を観察者に示す。
- 観察者は、授業観察では把握しきれない点等を授業者に質問する。
- 観察者は、授業観察を通して気付いたことを、観点ごとに色を分けて記録する。

観点の色分け例

青色：よかった点 桃色：改善点 黄色：具体的改善策

協議を円滑に進めるためのポイント

- ・ 自分ならどうするかという視点で話し合う。
- ・ 協議に参加した全員で、協議をつくるという意識をもつ。
- ・ 教科等や障害種別、担当学年等の違いに遠慮やこだわりをもち、授業改善に向け、率直に意見を出し合い、建設的な協議となるようにする。
- ・ 簡潔に発言するとともに、他の人の話は受容的な態度で聞く。
- ・ 司会、記録、発表、計時等の役割分担をする。

「分科会」

改善策の検討

- 1 授業観察の記録を基に、気付いたことを共有する。
- 2 授業者より提示された授業観察の視点等から、協議の方向性と課題を確認する。
- 3 焦点化された課題に対し、具体的な改善策を協議する。
- 4 改善策について、全体会で発表できるようにまとめる。

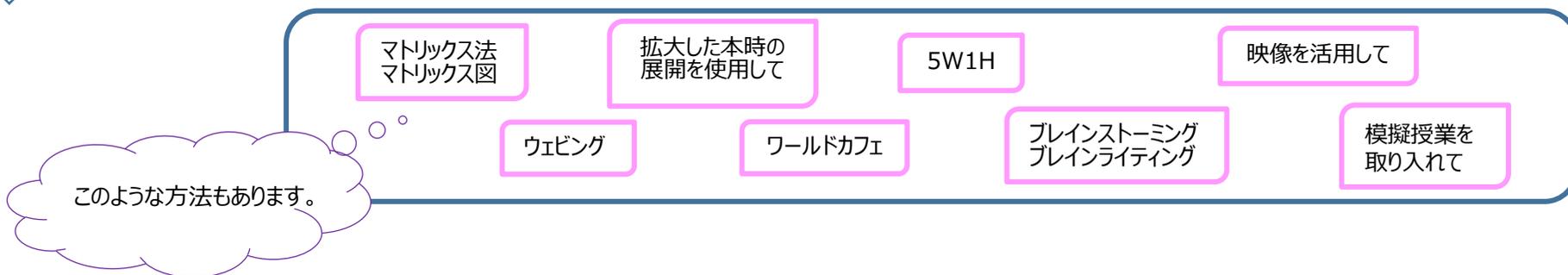
- 観点ごとに記録を整理する。改善点（桃色）と具体的改善策（黄色）はセットにするとよい。
- 観点ごとに分類し、標題を付けたり、順序性を示したりして課題等をまとめる。必要に応じて、重点的に協議する課題を定める(課題の焦点化)。
- 課題に対応した改善策となるように協議をまとめていく。

「全体会」

改善策の共有

- 1 各分科会で協議した内容と改善策を発表する。
- 2 進行役は、協議のまとめとして、課題に応じた改善策をまとめる。
- 3 授業者は、提案された改善策を、今後の授業に具体的にどのように生かすかを発表する。

- 発表の前に観点ごとにまとめられた内容を確認し、各分科会の協議の方向性を把握する。
- 改善策をまとめ、授業者は、どのように授業に生かすかを発表する。
 - ・ 全体会で提案された改善策を整理し、次時以降の授業の改善を図る。
 - ・ 観察者等も協議の内容や改善策を自身の授業改善に生かす。



ワンポイント

協議でICTを活用してみましょう

使用例

デジタルホワイトボード(オンライン)を使う



- ・ 各自のタブレット端末等で、全員の考えを確認できる。
- ・ 観点別に分類したものを、まとめたり標題を付けたりする際、やり直しが簡単にできる。
- ・ 協議後にも、いつでも出された意見が確認できる。

授業で使用したアプリケーションソフト等を操作する



- ・ 児童・生徒の立場でよさや課題を捉えることができる。
- ・ 使用場面の妥当性等を多面的・多角的に検討できる。

(4) 授業研究後

Plan

Do

Check

Action

授業研究後は、協議で提案された改善策を生かして学習指導案の修正を行います。改善策を生かした授業を実践し、その成果と課題を振り返ります。

【授業研究後の取組例】

- 1 授業研究(本時の授業と協議)を振り返る。
 - ・ 授業記録、協議記録
 - ・ 児童・生徒のノート、ワークシート、作品等
 - ・ 児童・生徒の授業の感想や意見
- 2 具体的な改善策をどのように授業に取り入れるかを計画し、準備する。
 - ・ **改善した学習指導案の作成**
 - ・ 模擬授業による改善策の確認
- 3 改善して実施した状況から得た成果や課題を記録する。

例：発問を「○○○○○○。」に変更したことにより、児童・生徒の発言が多様になり、考えが広がった。

授業改善ガイド –授業研究を通して–

発行月 令和8年3月

発行者 東京都教職員研修センター研修部授業力向上課

所在地 〒113-0033

東京都文京区本郷1-3-3

電話番号 03-5802-2236

電子メールアドレス S0200330@section.metro.tokyo.jp